



2010年6月12日

みなさん、こんにちは。前々号をこっそり書いていた森本です。前号でむっちゃんにばらされてしまったので、今回はこっそりせずに、改めてごあいさつをさせていただきます。まだまだ慣れなくてつたない文章ですが、今後ともよろしくをお願いします。

● トライやるウィークが終わりました



十二単と鎧の着付けに奮闘する中学生たち

今年もやってきました。6月といえばトライやるウィークの季節ですね。6月1日から4日までの4日間、6名の中学生が一生懸命頑張っていました。

二日目に女子生徒は十二単を、男子生徒は鎧の着付けをボランティアさんと当館職員から習って、着付け体験。男子生徒は鎧よりも刀に夢中でしたが、何度もしているうちにすぐに手順を覚えて、お友達に鎧を着せていました。さすが中学生は飲み込みが早いですね。若いて素晴らしい！

ちなみに、写真の十二単の着付けをしているのはトライやるウィークにきた女子生徒。十二単を着ているのは担任の先生です。様子を見に来ていた先生に強引にお願いして、モデルをしていただきました。担任の先生がモデルということもあって、照れながらも慣れない手つきで袴の紐を結ぶ姿は初々しかったです。



展示に挑戦！

続いては、展示体験。残念ながらトライやるウィーク期間中は、実際に展示室で展示作業をする機会はなかったのですが、普段私たちが使用している機材を使って展示を体験してもらいました。

作品に傷や汚れがつかないように、手袋をつけて作業をしてもらいましたが、…たかが布一枚、されど布一枚。なかなか思うように手先が動かせず、四苦八苦していました。

作業を見守っている私たちも、作品を落とさないかドキドキしていました。

余談ですが、県外出身の私はトライやるウィークを身近で触れるのは初めてでした。本当は出身地というよりも、ジェネレーションギャップというだけかもしれませんが…。

● 明石市指定文化財指定記念 『月照寺の至宝 ～江戸時代の柿本人麿信仰～』を開催します

月照寺は今から約 1200 年前に空海によって創建されたと伝えられているお寺で、明石築城の折に、現在の地に移されました。江戸時代には歌道が栄え、歌の聖である柿本人麿への信仰が高まり、天皇から人麿に「正一位柿本大明神」の神位と神号が下されました。そして、人麿を祀る月照寺に天皇や公家をはじめ、明石城主から短箆等が奉納されるようになりました。これらの膨大な資料は歴史的にも文学的にも非常に価値の高いものと評価され、平成 22 年 3 月に明石市の指定文化財として 14 件が指定をうけました。



柿本人麿像 『三十六歌仙絵』より

この機会に新しく市の指定文化財となった資料の公開と、すでに国の重要文化財となっている『桜町天皇宸翰^{しんかん}及一座短箆』など、月照寺に所蔵されている至宝の数々を展示します。

会 期：6 月 19 日(土)～7 月 7 日(水)

休館日：毎週月曜日

観覧料：大人 200 円、大高生 150 円、中小生 100 円

20 名以上の団体は 2 割引き。高年手帳(65 歳以上)・障害者手帳の提示で半額

【関連イベント】

講演会

日時：6 月 26 日(土) 午後 2 時～3 時 30 分

講師：鶴崎裕雄氏(帝塚山学院大学名誉教授)

演題：『柿本人麿と明石月照寺』

日時：6 月 27 日(日) 午後 2 時～3 時 30 分

講師：冷泉為人氏(冷泉家時雨亭文庫理事長)

演題：『冷泉家の和歌』

場所はいずれも 2 階大会議室

* 参加費無料(ただし要観覧料)

講演会参加者を電話受付中！
(先着 100 名様まで)

お申込み希望の方は…
078-918-5400
明石市立文化博物館へ
お電話ください。

● 「兵庫ゆかりの焼きもの展 ー古陶磁から現代陶芸までー」を開催中

6月9日から日本陶磁協会明石支部のご協力を得て、2階ギャラリーで陶芸の展覧会を開催しています。

明石では古くから「明石焼」という焼きものが作られていました。明石市外の方は「明石焼」と聞くと、どうしても食べ物のイメージを持っておられる方が多いようですが、地元では「玉子焼」と呼んでいます。「玉子焼」の呼称を知らなかったそのアナタ！！間違えないで下さいね。

今回の展示は江戸時代の古陶磁を中心として、古くは室町時代のものから現代作家の作品までを展示しています。明石焼はもちろんのこと、丹波焼や出石焼など兵庫県下の焼きものを45点展示しています。ぜひご覧ください。

会 期：6月9日(水)～6月20日(日) ただし、6月20日は2階ギャラリーのみ午後4時に展覧会終了となりますので、午後3時30分までに展覧会場へお越しください。

休館日：毎週月曜日

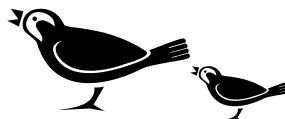
観覧料：大人200円、大高生150円、中小生100円

20名以上の団体は2割引き。高年手帳(65歳以上)・障害者手帳の提示で半額

● 「ゴルフの神様」～館長のTwitter(つぶやき)～

趣味はゴルフ。わいわいとやるコンペもいいが、自分が試されるオープン競技会への一人参加も楽しい。

今回も登場！



ゴルフは、他のスポーツと違って原則的に審判員がいない。ゴルフ規則書の冒頭には、「ゴルファーはみな誠実であり、故意に不正をおかす者はいない」と書いてあり、ゴルフの基本的な考え方だ。そこでは、「自分に都合のよい裁定をしない(ごまかさない)」というフェアプレイの精神と、「人を思いやり、迷惑をかけない」というフェロウシップの精神を求めている。つまり、プレーヤー＝審判員なのだ。そして、これらを守れない人はゴルフをする資格がないとも言っている。

私は有神論者ではないが、「ゴルフの神様」が見ていると思ってプレーしている。

博物館にも、ゴルフのように特別な鑑賞のルールはない。来館された方が、それぞれのスタイルで楽しんでもらうのが一番うれしい。

でも、心の中に「博物館の神様」を忘れないでほしいと思っている。